

平成 25 年度 事 業 報 告

(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

1. 会 員 状 況

会員種別	平成 25 年度			参 考	
	2013. 4. 1 現在数 (A)	2014. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2013. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	21	20	△1	21	△1
終身会員	120	120	0	104	16
正 会 員	3,251	3,137	△114	3,212	△75
学生会員	815	861	46	840	21
(合計)	4207	4138	△69	4177	△39
賛助会員	198 社 (287 口)	202 社 (285 口)	4 社 (△2 口)	194 社 (283 口)	8 社 (2 口)
特殊会員	93 社 (123 口)	85 社 (110 口)	△8 社 (△13 口)	91 社 (118 口)	△6 社 (△8 口)

2. 定款・規則等の制定・改正

- (1) 学生優秀発表賞選定手続きの改正 (2013. 4. 24)
- (2) 選奨規則の改正 (2013. 8. 6)
- (3) 会費規則の改正 (2013. 8. 6)

3. 機 関 誌 の 刊 行

- (1) 日本音響学会誌
本期間は毎月 1 日 (1 号は 12 月 25 日) を発行日とし、次の 12 冊を刊行した。

69 巻 4 号～70 巻 3 号 (2013 年 4 月～2014 年 3 月)

	巻	69 巻									70 巻			計
	号	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
	本文ページ	56	54	50	62	86	60	46	50	42	52	50	56	664
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言			2							2			4
	追悼文	2												2
	音叉	2			2			2						6
	論文	20 (2)	17 (2)	18 (2)	19 (2)	20 (2)	7 (1)	9 (1)	12 (1)	9 (1)	9 (1)	20 (2)	8 (1)	168 (18)
	技術報告	5 (1)						11 (1)						16 (2)
	寄書													
	総説						12 (1)							12 (1)
特別講演					7 (1)						6 (1)		13 (2)	

解説（小特集を含む）	20 (3)	28 (5)	19 (3)	31 (5)	18 (3)	32 (7)	21 (3)	29 (6)	21 (3)	32 (6)	18 (3)	39 (7)	308 (54)
会議報告 (シンポジウム/活動報告)			5 (1)			2 (1)			2 (1)				9 (3)
連載企画	2 (1)		2 (1)		2 (1)								6 (3)
研究発表会報告					1						1		2
選奨記事・紹介記事					10								10
書評					1				1				2
研究会発表論文一覧					22								22
コーヒープレーク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
68巻総目次									4				
AST目次		2		2		2		2		2		1	11
AST abstract		2		2		2		2		2		2	12
学会記事等	2	2	1	3	2	3		2	2	2	2	3	24
投稿規定										18			18
編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
会告	9	25	25	20	21	69	27	27	19	12	53	11	318
広告	10	13	9	12	11	14	8	13	9	10	10		
発行部数	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	4800	57600
小特集タイトル		※1		※2		※3		※4		※5		※6	

注 1) 欄中の () 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 人体組織の音響的不均一性と超音波医療

2 話者認識に関する研究の動向

3 道路交通騒音の低減に向けて

4 超音波によるマニピュレーション技術の動向

5 アクティブ消音技術における最近の動向

6 公共空間における音環境マネジメント

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2013年5月、7月、9月、11月、2014年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊をオンラインジャーナルとして刊行した。

Vol. 34 No. 3~Vol. 35 No. 2 (2013年5月~2014年3月)

Vol.		Vol. 34				Vol. 35		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		88	60	86	64	72	55	425
主 な 論 文 ・ 記 事	Paper	47 (5)	43 (5)	40 (4)	35 (4)	33 (4)	46 (4)	244 (26)
	Technical Report					5 (1)		5 (1)
	Acoustical Letter	31 (9)	12 (4)	38 (11)	8 (2)	15 (4)	6 (2)	110 (32)
	Foreword					1		
	Tutorial					9 (1)		9 (1)
	Invited Review	6 (1)				9 (1)	7 (1)	22 (3)
	Review							
	Short Note			2 (1)				2 (1)
	和文誌英文目次	2	2	2	2	2	1	11

和文誌論文等内容梗概	2	2	2	2	2	2	12
Vol. 34 総目次				6			6
小特集タイトル				※1			

注) 欄中の () 内数値は編数。

※1 Special issue on “revisiting place and temporal theories of hearing”

(3) 科学技術振興機構が主催する電子ジャーナル共同利用センター (J-STAGE) のサイト (URL <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ast/-char/en>) で、引き続き Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。

(4) 日本音響学会誌の投稿原稿種別に「研究速報(英文名: Acoustical Letter)」を新たに追加した。

4. 研究発表会の開催

(1) 春季研究発表会は、2013年3月13日、14日、15日の3日間、東京工科大学八王子キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1351名である。

なお、学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。スペシャルセッションは6件、「実働システム開発のコツ」、「音楽と楽器の相互作用 III—歴史的視点と同時代的視点から—」、「これからの超音波アクチュエータ技術—上羽貞行東京工業大学名誉教授の功績を顧みて—」、「最近の聞こえ支援システム技術とその展開(その3)」、「音響分野の発展を支える音響教育とその学術的価値」、「音のデザインと知覚、そして評価」で実施した。また、「学会会費の改定について」をテーマとするコミュニティセッションを実施した。

(2) 秋季研究発表会は、2013年9月25日、26日、27日の3日間、豊橋技術科学大学を会場として開催した。参加者実数は、1102名である。

スペシャルセッションは6件、「超音波による非破壊検査技術の動向」、「ここまで来た声質変換技術—実用可能性の視点からの現状認識と将来展望—」、「アート・エンターテインメント分野における音のデザイン」、「公共空間における音環境の実状と期待される性能」、「暮らしの中の騒音—聴覚に根差した評価と対策—」、「屋外拡声システムに関する研究の最近の動向」で実施した。

なお、9月26日に特別イベントとして「手筒花火」の実演を天伯山神社で開催したほか、9月27日に本多電子(株)超音波科学館の見学会を実施した。

また、東海支部40周年記念事業を合わせて実施した。

(3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音 声 A	90	82
	音 声 B	103	80
	聴覚/聴覚・音声	49	42
	電 気 音 響	123	97
	電気音響/聴覚(共催)		16
	音 楽 音 響	38	22
	騒 音 ・ 振 動	27	20
	建 築 音 響	37	52
	超音波/水中音響	86	78
	アコースティック・イメージング	13	10
	音 響 教 育	-	2
	音支援(音バリアフリー)	5	9
	熱音響技術	5	9
	音のデザイン		4
学術委員会/音響教育「音響分野の発展を支える音響教育とその学術的価値」		8	

音のデザイン「音のデザインと知覚, そして評価」	18	
建築音響、騒音・振動「公共空間における音環境の実状と期待される性能」		10
超音波, アコースティックイメージング「超音波による非破壊検査技術の動向」		8
音のデザイン「アート・エンターテインメント分野における音のデザイン」		8
音声B, 音声A, 聴覚「ここまで来た声質変換技術」		9
分野横断型(騒音・振動、聴覚)「暮らしの中の騒音」		11
分野横断型(災害等非常時屋外拡声調査研究委員会ほか)「屋外拡声システムに関する研究の最近の動向」		7
計	602	576

特別講演	演 題	バイオテクノロジーの展望	東三河の手筒花火の由来
	講 師	東京工科大学学長 軽部 征夫 氏	愛知大学教授 渡辺 和敏 氏

(4) 技術動向レビューの実施

2013年春季は、2013年3月12日に「音声対話技術の研究開発動向」をテーマとして実施した。技術動向レビューは、研究発表会での発表に関連するトピックスを選び、その技術動向を体系的に整理した形で紹介する企画である。

5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超 音 波	梅村晋一郎	11	113	アコースティックイメージング、音響化学研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	坂本 慎一	10	63	聴覚、建築音響研究会との合同開催分の含む
電 気 音 響	岩谷 幸雄	9	130	音声、聴覚、音楽音響研究会との合同開催の分を含む
音 声	川端 豪	8	130	電気音響、聴覚研究会との合同開催の分を含む
聴 覚	鈴木 陽一	9	126	音声、電気音響、騒音・振動、音楽音響研究会との合同開催の分を含む
建 築 音 響	田中 学	10	51	騒音・振動研究会との合同開催分を含む
音 楽 音 響	山田 真司	8	77	聴覚、電気音響研究会との合同開催の分を含む
音 響 化 学	酒井 啓司	1	18	音波の物性と化学討論会(超音波研究会と共催)
アコースティックイメージング	中村健太郎	5	52	超音波研究会との合同開催の分を含む
合 計		71	760	

(2) 騒音・振動、聴覚、建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で実施した。

6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

ア. 2014年6月1日～6月5日に奈良において開催する第10回公衆衛生問題としての騒音に関する国際会議(ICBEN2014)に協力した。

イ. ASJ-PAS 共同企画実行委員会において、2014年9月7日から4日間、ポーランド共和国クラコウ市において開催の第7回 Forum Acusticum でポーランド音響学会と共催するスペシャルセッション(Polish Acoustical Society - Acoustical Society of Japan Special Session Stream)の開催準備を行った。なお、同スペシャルセッションは8つの分野で開催する。

ウ. 2016年11月27日～12月2日の間、ハワイ(ホノルル市、Hilton Hawaiian Village)において開催する第5回日米ジョイントミーティングの準備を行った。なお、日本側実行委員長として渡辺好章氏(同志社大学)をプログラム委員長として安藤彰男氏(富山大学)を選定した。

(2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会(ICA)、国際騒音制御工学会(I-INCE)の総会等に出席し、その活動に協力した。また、西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。

7. 音響規格の調査・作成

(1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格(JIS)に関して5年ごとの見直し作業を行った。

(2) 音響に関する国際規格(ISO/TC 43、同/SC1、同/SC2、同/SC3及びIEC/TC29関係)の審議を日本規格協会から委託され、それぞれの専門委員会(橘 秀樹委員長[ISO]、佐藤宗純委員長[IEC])において審議し、結果をとりまとめて報告した。

8. 調査研究委員会の活動

(1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

(株)高速道路総合技術研究所との共同研究により、「道路交通騒音の予測手法及び対策手法の研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会(坂本慎一委員長)が作業を実施し、その成果を報告した。

(2) 音響教育に関する調査研究

音響教育調査研究委員会(佐藤史明委員長)において、音響教育に関する現状の調査研究及び将来の音響教育のあり方等について審議を行った。なお、8月10日、11日に開催された国立科学博物館「夏休みサイエンススクエア」に出展した。

(3) 音バリアフリーに関する調査研究

音バリアフリー調査研究委員会(白石君男委員長)において、聴覚障害者のための会話システムの研究、デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。

(4) 音と脳科学に関する調査研究

音と脳科学調査研究委員会(本田 学委員長)において、人と音と脳の関わりについての調査研究を実施した。

(5) 熱音響技術に関する調査研究

熱音響技術調査研究委員会(渡辺好章委員長)において、既存のエネルギー変換システムが抱える廃熱の利用を目的とする調査研究を実施した。

(6) 音のデザインに関する調査研究

音のデザイン調査研究委員会(岩宮眞一郎委員長)において、製品音、サイン音、サウンドスケープ、音環境等の音のデザインについて、包括的に調査研究を行い、音のデザインの必要性、可能性、将来性を発信することを目的とする活動を実施した。

(7) 災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する調査研究

災害等非常時屋外拡声システムのあり方に関する技術調査研究委員会(鈴木陽一委員長)において、防災行政無線子局の屋外拡声システム等に関する調査研究を行った。

(8) 軟骨伝導に関する調査研究

軟骨伝導の基本メカニズムとその応用技術等について検討する軟骨伝導調査研究委員会

(細井裕司委員長)を新たに設置した。同調査研究委員会は、軟骨伝導応用機器の普及、軟骨伝導音の校正法の規定、更には国際的な基準を設けることを目的とし、2014年4月から活動を開始する。

9. 選 奨

(1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第37回功績賞受賞者は、笥一彦、鎌倉友男、柳引淳一の3氏に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

(2) 佐藤論文賞

音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌68巻1号～12号、69巻1号～12号並びにAST誌Vol.33 No.1～No.6、Vol.34 No.1～No.6に掲載された論文中から優秀な論文を選び、2014年春季研究発表会選奨会場(2014年3月11日)で本賞を贈呈した。

第54回佐藤論文賞受賞論文(敬称略)

○浅見太一・野本済央・小橋川哲・山口義和・政瀧浩和・高橋 敏(NTTサイバースペース研究所、現NTTメディアインテリジェンス研究所)

「単語の文脈一貫性を用いた音声ドキュメント認識信頼度の推定」日本音響学会誌68巻7号

○Yudi Adityawarman, Arata Kaneko, Naokazu Taniguchi, Hidemi Mutsuda, Katsuaki Komai(広島大学)、Xinyu Guo(愛媛大学)、Noriaki Gohda(水環境モニタリング有限責任事業組合)

「Tidal current measurement in the Kurushima Strait by the reciprocal sound transmission method」AST誌33巻1号

(3) 環境音響研究賞

環境音響学の発展に貢献した、主として建築音響分野又は騒音分野に関連する一連の研究を対象とするもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2014年春季研究発表会選奨会場(2014年3月11日)で本賞を贈呈した。

第5回環境音響研究賞受賞者(敬称略)

○羽入敏樹(日本大学)

「室内音場の方向情報の主観評価と音場拡散の枠組みに関する研究」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音声処理に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2014年春季研究発表会選奨会場(2014年3月11日)で本賞を贈呈した。

第9回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者(敬称略)

○齋藤大輔(東京大学)

「言語性・話者性のモデル化と再統合に着眼した音声合成・声質変換の研究」

(5) 栗屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2013年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2013年秋季研究発表会選奨会場(2013年9月26日)及び2014年春季研究発表会選奨会場(2014年3月11日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第34回栗屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2013年春季研究発表会、5名)

○饗庭 絵里子(独立行政法人産業技術総合研究所)

「同時性判断の精度に対する楽器演奏経験の影響 — 蝸牛遅延との関連の検証 —」

○井本 桂右(NTTメディアインテリジェンス研究所)

「音響イベント列の確率的生成モデルを利用した音響トピックとユーザ行動との関係分析」

○平田 慎之介(東京工業大学)

「M系列変調信号の周波数スペクトルに基づくドップラー速度計測における速度検出法の検討」

- 増村 亮 (NTTメディアインテリジェンス研究所)
「Latent Words Language Modelに基づくN-gram言語モデル」
- ルルー ジョナトン (Mitsubishi Electric Research Laboratories)
「音声・音響モデリングのための非負値力学系」

第35回栗屋 潔学術奨励賞受賞者 (敬称略/2013年秋季研究発表会、5名)

- 石井 要次 (千葉工業大学)
「受聴者の耳介形状に基づいた頭部伝達関数の個人化精度の検証」
- 大塚 翔 (東京大学)
「周波数変調と振幅変調の処理能力の個人差: 耳音響放射との関連」
- 高道 慎之介 (奈良先端科学技術大学院大学)
「変調スペクトルを考慮したHMM音声合成」
- 太刀岡 勇氣 (三菱電機(株))
「騒音環境下音声認識に対する識別的アプローチの有効性 第2回CHiMEチャレンジ」
- 森 淳一 (千葉工業大学)
「屋外拡声システムの音響設計のための可聴型シミュレーションシステムの試み」

(6) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2013年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2013年秋季研究発表会選奨会場(2013年9月26日)及び2014年春季研究発表会選奨会場(2014年3月11日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第7回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2013年春季研究発表会、17名)

- 遠藤 基 (豊橋技術科学大学)、古谷 遼 (龍谷大・理工)、
- 元田 紘樹 (NTTアドバンステクノロジー(株))、高道 慎之介 (奈良先端科学技術大学院大学)、
- 西江 純教 (北陸先端科学技術大学院大学)、藤平 晴奈 (九州大学)、小林 洋介 (山形大学)、
- 石本 幸太郎 (静岡大学)、伊藤 敦郎 (東北大学)、山本 龍一 (名古屋工業大学)、
- 片桐 章彦 (中央大学)、三苫 歩 (京都大学)、藤田 雄太 (東北大学)、竹内 誠 (防衛大学校)、
- 栗井 康裕 (東京工業大学)、樋口 達矢 (東京工業大学)、藤沼 潔 (中央大学)

第8回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2013年秋季研究発表会、20名)

- 相原 龍 (神戸大学)、柏木 陽佑 (東京大学)、清水 宏晃 (奈良先端科学技術大学院大学)、
- 樋口 卓哉 (東京大学)、北条 伸克 (東京大学)、土屋 宏樹 (千葉工業大学)、
- 青山 由樹 (豊橋技術科学大学)、上迫 奈津季 (関西大学)、
- 北村 大地 (奈良先端科学技術大学院大学)、田村 有希 (早稲田大学)、
- 中井 駿介 (奈良先端科学技術大学院大学)、篠原 亮 (東京電機大学)、
- 五十嵐 佑樹 (東北大学)、森 淳一 (千葉工業大学)、江田 和司 (東京大学)、
- 藤井 郁香 (筑波大学)、渡邊 晶子 (桐蔭横浜大学)、阿部 峻靖 (桐蔭横浜大学)、
- 矢田部 浩平 (早稲田大学)、仲戸川 桃子 (東京都市大学)

(7) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者、賛助会員所属の個人、グループに贈られるもので、公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

第22回技術開発賞受賞者 (敬称略)

- (株)エーアイ
「日本語テキスト音声合成ソフトウェアAITalk(エーアイトーク)シリーズの開発」
平井啓之、藤田 覚、筒井亜希、栗田圭介、加藤大輔、孫 嘉人、宇賀持綾子、森 千恵、杉本 寛 ((株)エーアイ)
- NTTメディアインテリジェンス研究所/NTTアドバンステクノロジー(株)/NTTコミュニケーションズ
「スマートフォン向け自動適合型エコーキャンセラソフトウェア」

島内末廣、小林和則、大室 伸 (NTT メディアインテリジェンス研究所)、福井勝宏、佐々木茂明 (NTT アドバンステクノロジー(株))、福富隆明、西谷智広、岩田敏行、市川雄一 (NTT コミュニケーションズ)

○大成建設(株)技術センター

「超高層建物閉鎖型解体工法「テコレップシステム」による騒音伝搬の低減」

山口晃治、増田 潔、市原英樹、梅津匡一、宇津木淳一、長田篤佳 (大成建設(株))

(8) 学会活動貢献賞

本学会活動の活性化に多大な貢献があった若手の正会員又は学生会員を顕彰する目的で贈られるもので、今年度は次の3名を選定した。なお、2014年春季研究発表会選奨会場(2014年3月11日)で本賞を贈呈した。

○大谷 真 (信州大学)

○豊田政弘 (関西大学)

○横田考俊 (一般財団法人 小林理学研究所)

10. 講習会、講演会及びセミナーの開催

(1) 講習会 (敬称略)

事業委員会 (片岡章俊委員長) が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとおりである。

ア. 「音源定位と音源分離の基礎」(第125回技術講習会)

期 日 ; 2013年6月27日~28日 会場 ; 全国家電会館

講 師 ; 浅野 太 (産業技術総合研究所)

受講者数 ; 37名

イ. 「音響インパルス応答計測の基礎」(第126回技術講習会)

期 日 ; 2013年8月28日 会場 ; 東京電機大学北千住キャンパス

講 師 ; 金田 豊 (東京電機大学)

受講者数 ; 43名

ウ. 「オーディオトランスデューサの仕組みと基本技術」(第127回技術講習会)

期 日 ; 2013年10月10日~11日 会場 ; 全国家電会館

講 師 ; 大賀寿郎 (芝浦工業大学名誉教授)

受講者数 ; 21名

エ. 「音響・振動におけるFDTD法の基礎と応用」(第128回技術講習会)

期 日 ; 2013年10月22日~23日 会場 ; 東京大学生産技術研究所

講 師 ; 佐藤雅弘 (富山大学)、坂本慎一 (東京大学)、土屋健伸 (神奈川大学)、
豊田政弘 (関西大学)

受講者数 ; 30名

オ. 「立体音響技術」(第129回技術講習会)

期 日 ; 2013年10月30日 会場 ; 東京大学生産技術研究所

講 師 ; 大谷 真 (信州大学)

受講者数 ; 38名

カ. 「Praatによる音声加工と知覚実験の実施法」(第130回技術講習会)

期 日 ; 2013年11月31日~12月1日 会場 ; 東京大学生産技術研究所

講 師 ; 北原真冬 (早稲田大学)、田嶋圭一 (法政大学)、田中邦佳 (法政大学)

受講者数 ; 45名

キ. 「デジタル信号処理の基礎」(第131回技術講習会)

期 日 ; 2013年11月7日~8日 会場 ; 東京電機大学北千住キャンパス

講 師 ; 金田 豊 (東京電機大学)

受講者数 ; 17名

(2) サマーセミナー (敬称略)

ア. 「音響学の基礎と最近のトピックス」(第15回サマーセミナー)

期 日 ; 2013年7月28日~30日 会場 ; 長野県白馬・シエラリゾート白馬

講 師 ; 渡辺好章 (同志社大学)、伊藤彰則 (東北大学)、荒井隆行 (上智大学)、
及川靖広 (早稲田大学)、大内康裕 (早稲田大学)、大川茂樹 (千葉工業大学)、
大谷 真 (信州大学)、坂本慎一 (東京大学)、須田宇宙 (千葉工業大学)

中村健太郎 (東京工業大学)、三浦雅展 (龍谷大学)、山崎芳男 (早稲田大学)

受講者数 ; 48名

(3) ビギナーズセミナー（敬称略）

ビギナーズセミナー実行委員会（及川靖広委員長）で初学者を対象にビギナーズセミナーを開催した。2013 年春季研究発表会では「音響学入門ペディア」作成に向けて」をテーマとして、2013 年秋季研究発表会では「音響学入門ペディア」Q&A 集の紹介をテーマとして実施した。

1 1. 出版事業

(1) 出版委員会に属する 3 つの編集委員会、音響テクノロジーシリーズ編集委員会（坂本慎一委員長）、音響入門シリーズ編集委員会（羽田陽一委員長）、音響サイエンスシリーズ編集委員会（平原達也委員長）において、それぞれ企画内容について審議し、出版した。なお、平成 25 年度の発行状況は以下の通りである。

ア. 音響テクノロジーシリーズ

- ・ 非線形音響 –基礎と応用–（音響テクノロジーシリーズ 18）（2014/03/31 発行）

イ. 音響サイエンスシリーズ

- ・ 聴覚の文法（音響サイエンスシリーズ 8）（2014/03/31 発行）

(2) 音響キーワードブック編集委員会（中村健太郎編集委員長）において、収録するキーワードの収集を行うなど刊行準備を行った。

(3) 音響サイエンスシリーズ「音響バブルとソノケミストリー」の英語版出版の企画について審議を行い、進めることとした。なお、音響テクノロジーシリーズ「音・振動のモード解析と制御」の中国語翻訳出版の企画について審議を行い、進めることとした。

1 2. 学会電子化推進に関する活動

電子化・広報委員会（大鶴 徹委員長、武田一哉副委員長）において、Web、メーリングリスト、Facebook 及び Twitter（研究発表会会場）を利用した各種会員サービスを行った。

1 3. 会勢拡大及び広報に関する活動

(1) 会勢拡大委員会（亀川 徹委員長、菅木禎史副委員長）において、会員の増加策等会勢の拡大につながる諸策を検討し、今期は、非会員の勧誘をはかるために、各研究委員会と連携をとりながら、非会員が所属する学会と連携して研究会等を企画することを、学術委員会で提案し、実施した。

(2) 活性化・若手育成委員会（猿渡 洋委員長）において、サマーセミナーの実施、ビギナーズセミナーの開催、学生フォーラムの活動の活性化を図る活動を行った。

(3) 音響学入門ペディアの作成委員会（羽田陽一委員長）において、音響学に関連する基礎的であるが、難解な原理、事象について体験的に理解した過程等を解説的に説明する音響学入門ペディアの作成事業を実施した。

1 4. 財政改善に関する活動

(1) ここ数期の理事会で検討を行った会費の改定について、今期理事会において 2014 年度から正会員及び学生会員会費をそれぞれ改定することを決議し、学会誌等で周知を行った。なお、正会員及び学生会員会費の改定は 1987 年以来、26 年ぶりとなる。

(2) 財務改善委員会（蜂屋弘之委員長、河井 恒副委員長）において、賛助会員のメリットの整理・追加を行い、入会の勧誘を行った。また、研究発表会ポスターセッションの空きコマを有効に活用するため、賛助会員にポスター展示の希望を募り、実施した。

(3) 当学会支部が学会の賛助会員を勧誘し、入会した場合に口数に応じて支部交付金に反映できることとするため、支部交付金規則を改定した。

1 5. 通常総会の開催

第 47 回通常総会は、2013 年 5 月 21 日、東工大蔵前会館において開催した。なお、出席者は、123 名（うち議決権行使書の提出による出席 76 名）であった。

16. 理事会、役員会並びに委員会活動

(1) 理事会

平成 25 年度理事会は、2013 年 4 月、5 月、5 月臨時理事会、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月、2014 年 1 月、2 月、3 月の 12 回開催した。なお、2013 年 5 月の臨時理事会では、会長、副会長及び業務執行理事を選任した。

(2) 役員会

平成 25 年度役員会は、2013 年 8 月を除く毎月、計 11 回開催した。

(3) 企画委員会

平成 25 年度企画委員会（安藤彰男委員長）は、2013 年 8 月、2014 年 3 月を除く毎月、計 10 回開催した。

(4) 編集委員会

平成 25 年度編集委員会（中村健太郎委員長）は、2013 年 5 月、6 月、7 月、9 月、11 月、2014 年 1 月及び 3 月の計 7 回開催した。

(5) 学術委員会

平成 25 年度学術委員会（鈴木陽一委員長）は、2013 年 7 月、9 月、12 月、2014 年 3 月の 4 回開催した。

(6) 財務改善委員会

平成 25 年度財政改善委員会（蜂屋弘之委員長、河井 恒副委員長）は、2013 年 10 月、12 月の 2 回開催した。

(7) 研究発表会準備委員会

平成 25 年度研究発表会準備委員会（土屋隆生委員長）は、2013 年 7 月、9 月、12 月、2014 年 3 月の 4 回開催した。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、7 月、12 月の 2 回開催した。

(8) 広報・電子化委員会

平成 25 年度広報・電子化委員会（大鶴 徹委員長）は、2013 年 9 月、2014 年 3 月の 2 回開催した。

(9) 事業委員会

平成 25 年度事業委員会（片岡章俊委員長）は、2013 年 9 月、2014 年 3 月の 2 回開催した。

(10) 国際渉外委員会

平成 25 年度国際渉外委員会（竹内真一委員長）は、2014 年 3 月に開催した。

(11) 国際渉外委員会

平成 25 年度出版委員会（牧野昭二委員長、安藤彰男委員長代理）は、2014 年 3 月に開催した。

17. 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	1 件	(一社)電子情報通信学会
協 賛	40 件	(公社)計測自動制御学会ほか
後 援	1 件	(一社)日本オーディオ協会
計	42 件	

18. 支部所属会員

(1) 関西支部

会員種別	平成 25 年度			参 考	
	2013. 4. 1 現在数(A)	2014. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2013. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	6	6	0	6	0
終身会員	12	13	1	10	3
正 会 員	524	515	△9	519	△4
学生会員	160	208	48	165	43
(合計)	702	742	40	700	42

(2) 東北支部

会員種別	平成 25 年度			参 考	
	2013. 4. 1 現在数(A)	2014. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2013. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	3	3	0	3	0
終身会員	9	9	0	5	4
正 会 員	143	145	5	146	2
学生会員	53	76	23	55	21
(合計)	208	233	28	209	27

(3) 東海支部

会員種別	平成 25 年度			参 考	
	2013. 4. 1 現在数(A)	2014. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2013. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	1	1	0	1	0
終身会員	9	9	0	9	0
正 会 員	291	292	1	282	10
学生会員	78	103	25	78	25
(合計)	379	405	26	370	35

(4) 九州支部

会員種別	平成 25 年度			参 考	
	2013. 4. 1 現在数(A)	2014. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2013. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	5	4	△1	5	△1
正 会 員	167	175	8	165	10
学生会員	51	66	15	54	13
(合計)	223	245	22	224	22

(5) 北陸支部

会員種別	平成 25 年度			参 考	
	2013. 4. 1 現在数(A)	2014. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2013. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	1	1	0	1	0
正 会 員	65	64	△1	64	1
学生会員	44	49	5	46	3
(合計)	110	114	4	111	4

19. 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2013年4月、6月、10月、12月、2014年1月、3月の6回開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	25. 4. 26	神戸大学統合研究拠点	出席者 177 名(うち委任状 153) / 定足数 108 名
見学会・講演会	25. 4. 26	理化学研究所計算科学研究機構、神戸大学統合研究拠点	スーパーコンピュータ「京」の見学、3次元可視化技術に関する講演会 参加者 27 名
聴覚研究会	25. 5. 24 ～ 25	同志社大学京田辺キャンパス	発表件数 18 件 参加者 75、69 名
建築音響研究会	25. 7. 16	キャンパスプラザ京都	発表件数 5 件 参加者 27 名
見学会・講演会	25. 10. 8	梅田北ヤード	ナレッジキャピタル及びザ・ラボの見学会と講演会、音響機器メーカーによる実演 参加者 43 名
建築音響研究会	25. 11. 20	キャンパスポート大阪	発表件数 5 件 参加者 15 名
音声研究会	25. 11. 21 ～ 22	奈良先端科学技術大学院大学	発表件数 11 件 参加者 35、36 名
超音波研究会	25. 11. 23	同志社大学室町キャンパス	発表件数 6 件 参加者 23 名
アコースティックイメージング研究会	25. 12. 6	京都府立医科大学	発表件数 8 件 参加者 42 名
第 16 回若手研究者交流研究発表会	25. 12. 8	産業技術総合研究所関西センター	講演会、ポスターセッション、懇親会発表件数 43 件 参加者 130 名
超音波研究会・電気音響研究会(併催)	26. 1. 24 ～ 25	関西大学	発表件数 26 件、 参加者 36 名(超音波)、51 名(電気音響)

(2) 東 北 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2014 年 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	25. 4. 17	東北大学大学院工学研究科	
第 1131 回学術講演会	25. 4. 17	東北大学工学部	「連続 DP とテキスト・音声・画像・動画処理 –セグメンテーションと認識の同時的解決手法について–」 講師 岡 隆一 氏(会津大学) 来聴者 250 名
電気関係学会東北支部連合大会	25. 8. 22 ～ 23	会津大学	発表件数 293 件、セッション数 55、 参加者 600 名 (のべ) 特別企画・講演「豊かな日本造りに向けての電気技術の貢献」 講師：日高邦彦 氏(東大) 特別講演「いまなぜ「ならぬことはならぬ」か」 講師：宗像 精(会津藩校日新館館長) 来聴者 120 名
音声研究会	25. 7. 25 ～ 27	遠刈田温泉壮鳳	
電気音響研究会・聴覚研究会	25. 8. 9	東北大学電気通信研究所	
超音波研究会	25. 9. 12	東北大学工学部	
東北大学電気通信研究	25. 10. 12	東北大学電気通信研究	来聴者 1975 名

所一般公開 2013(後援)	～ 13	所	
音楽音響研究会	25. 10. 19	八戸工業大学メディアセンター	
平成 26 年東北地区若手研究者研究発表会(共催)	26. 2. 28	東北工業大学八木山キャンパス	「音・光・電波・エネルギー・システムとその応用」

ウ. 若手研究者優秀論文賞受賞者

東北支部が主催又は共催した若手研究者発表会、電気関係学会支部連合大会における若手研究者を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は 2 名であった。

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2013 年 3 月、12 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会・講演会	25. 3. 26	愛知工業大学本山キャンパス	出席者 18 名 参加者 21 名(講演会)
騒音・振動研究会(後援)	25. 5. 17	名城大学天白キャンパス	参加者 24 名 講演件数 5 件
東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会(後援)	25. 8. 3	豊橋技術科学大学	参加者 136 名 講演件数 46 件
見学会	25. 9. 10	宗次ホール	参加者 32 名
電気関係学会東海支部連合大会	25. 9. 24 ～ 25	静岡大学	音響関係発表 13 件 参加者 963 名
東海支部 40 周年記念行事	25. 9. 24	穂の国豊橋芸術劇場	参加者 266 名
日本音響学会 2013 年秋季研究発表会	25. 9. 25 ～ 27	豊橋技術科学大学	参加者 1102 名 懇親会参加者 171 名
聴覚研究会(後援)	25. 11. 28 ～ 29	豊橋技術科学大学	参加者 34 名、30 名 講演軒数 16 件
建築音響、騒音・振動関連若手研究発表会	25. 12. 7	愛知工業大学本山キャンパス	参加者 12 名 講演 6 件
2013 年度学生表彰式・祝賀会	25. 12. 18	ルブラ王山	出席者 15 名 (うち表彰学生 4 名)
音声研究会(後援)	26. 1. 23 ～ 24	名城大学天白キャンパス	講演件数 11 件
聴覚研究会(後援)	26. 3. 5 ～ 6	愛知淑徳大学	参加者 25 名、21 名 講演件数 11 件
電子情報通信学会平成 25 年度専門講習会(協賛)	26. 3. 7	名鉄ニューグランドホテル	参加者 61 名 講演 5 件
建築音響研究会(後援)	26. 3. 19	清水文化会館	講演件数 4 件

(4) 九 州 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2013 年 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
超音波研究会	25. 7. 29	九州大学	

	～ 30		
騒音・振動研究会	25. 8. 19	九州大学	
電気関係学会九州支部 連合大会	25. 9. 24 ～ 25	熊本大学	講演申込 558 件 (うち音響・音声部門 15 件)
学生のための研究発表 会	25. 11. 30	九州大学	発表件数 24 件
建築音響研究会	25. 12. 18	ホルトホール大分	
騒音・振動、聴覚研究会	25. 12. 21	長崎大学	
聴覚研究会	26. 2. 8 ～ 9	那覇市 IT 創造館	
音楽音響研究会	26. 2. 22	九州大学	
騒音・振動研究会	26. 2. 28	沖縄産業支援センター	
支部総会	26. 3. 29	九州大学大橋キャンパ ス	出席者 53 名(うち委任状提出者 28 名)

ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会、研究会等における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は 5 名であった。

(5) 北 陸 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2013 年 4 月、6 月、10 月、2014 年 1 月、2 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	25. 4. 16	金沢大サテライト・プラ ザ	出席者 28 名 (うち委任状提出者 9 名)
電気関係学会北陸支部 連合大会	25. 9. 21 ～ 22	金沢大学	音波・音響関係部門 講演 19 件 (うち招待講演 1 件) 学生優秀論文発表賞 8 件
超音波研究会	25. 11. 11 ～ 12	金沢工業大学	講演 15 件 参加者 44 名
第 3 回北陸合同音響セミ ナー in 富山	25. 11. 16	明治安田生命ホール	講演会 山田真司氏(金沢工大) 加藤敏久氏(富山クラフトオーデ ィオクラブ) 演奏会 トリオ The がーびる 参加者 122 名
電気音響研究会	25. 12. 13 ～ 14	金沢大学サテライト・プ ラザ	講演 15 件 (招待講演 3 件) 参加者 51 名
第 4 回北陸合同音響セミ ナー in 金沢 - 音の研究 を通した学生・若手研 究所の輪(和) -	25. 12. 14	金沢大学サテライト・プ ラザ	講演会 才野慶二郎氏(ヤマハ) 木谷俊介氏(NTT コミュニケーショ ン科学基礎研究所) 松永悟行氏 (エアアイ) ポスター発表 29 件 参加者 51 名
北陸地区学生による研 究発表会	26. 3. 8	金沢工業大学	音波・音響関係 講演

ウ. 表彰

・平成 26 年 2 月、金沢工業大学において優秀学生賞 8 名を決定した。

事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。